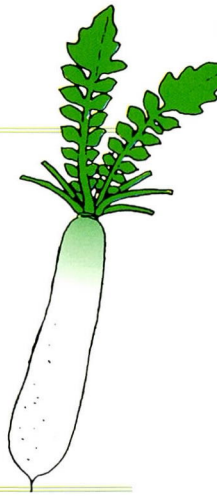


# ダイコンの品種紹介（北海道）

雪印種苗(株) 中央研究農場

安達英人



## 1 はじめに

北海道のダイコン出荷量は約20万tで、その半分を府県へ移出しています。主産地では100日の播種期間があり、各播種期で多くの品種が使われていますが、その中でも雪印交配ダイコンは外観だけでなく、味も良いという『高品質』の点で評価をいただいております。

しかし、その優れた特性を発揮させるためには、その品種に適した栽培を行うことが大切です。

ここでは、品種特性を十分に発揮させるために品種の使い分けと栽培のポイントについて紹介致します。

## 2 各品種の特性（表1参照）

### 1) 喜太一（試作名：SB 7015）

＝極晩抽性で、揃い性と品質が優れる

青首春ダイコン＝

根の太りは遅いほうですが、低温時でも根の伸びは良く、トンネル栽培で35cm、マルチ栽培で38cm程度になり、尻つまりの良い総太り型に揃います。

青首色は淡緑色ですが、肌つやが良く、ひげ根の発生が少ないため、毛穴が小さく外観が優れます。

表1 品種特性表

品種名	草勢	適作型での生育日数	根長 (cm)	根径 (cm)	首色	ウイルス病	萎黄病	抽苔性	晩索性
喜太一	中	60	38～40	7	淡緑	●	●	●	●
RA-127	強	60	35～38	7	緑	●	●	●	●
夏元太	弱	60	38～40	7	淡緑	●	●	●	●
涼太	中	60	35～40	7	緑	●	●	●	●

注) ●極強・極安定、●強・安定

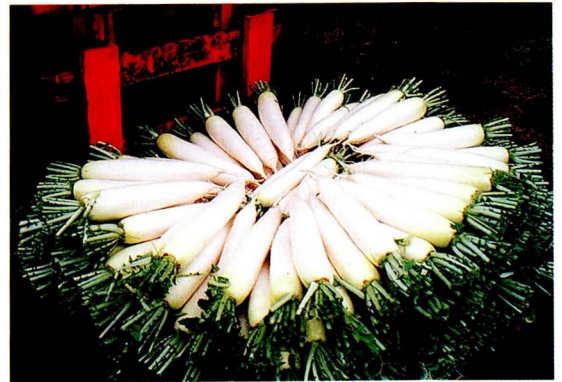


写真1 極晩抽性で、規格内収量多く、高品質の「喜太一」

草姿は立性の濃緑中葉で、草勢は葉勝ちになりにくく、収穫直前に抽根してくるために曲がり根は少なくなります。

す入りは安定して遅く、高温期の出荷でも、生理障害の発生は少なく安心して栽培できます。

### 2) RA-127（販売予告系統）

＝安定した晩抽性と品質が

優れる青首夏ダイコン＝

『涼太』をより晩抽性に改良した系統で、青首が鮮明で、肌の美しい夏ダイコンです。

根の太りはやや遅いほうですが、平畦マルチ栽培では36cm、高畦マルチ栽培では40cm程度に揃います。

外観・品質は秋ダイコンに近く、青首色は緑色で、肌つやが良く、ひげ根の発生はほとんどないので、夏期の青首指向の強い市場出荷に適します。

す入りは安定して遅く、



写真2 安定した晩抽性で、青首の鮮明な夏期市場出荷に最適な「RA-127」

生理障害の発生も少なく、品質は安定しています。草勢が旺盛なので、肥沃地では施肥量に注意します。

### 3) 夏元太 (試作名: SB 7014)

=晩抽性で、耐暑性に優れる

総太り夏ダイコン=

夏ダイコンとしては抽苔は安定しており、べたがけを併用したマルチ栽培では6月上旬からの播種が可能です。

高温時でも生育良好で、根長 38 cm, 根径 7.5 cm 程度に良く揃い、根形も尻つまりが早く、総太り型に良く揃います。

草姿は半立性の濃緑葉で、草勢がおとなしいため、曲がり、裂根も少なく栽培容易です。

軟腐病、萎黄病に強く、生理障害の発生はごく少なく、安心して栽培できます。

青首色は淡緑色ですが、肌つやが良く、肉質は緻密で、す入りは遅く、市場性に優れています。



写真3 晩抽性で、高温時の8~9月穫りに最適な「夏元太」

### 4) 涼太

=早太りで曲がりの少ない

青首夏秋ダイコン=

秋ダイコンの中では根長がやや短めで、根の太りが早く、曲がり根が少ない品種です。根長は 37 cm 程度に良く揃い、青首幅は 15 cm 程度で、濃緑鮮明で市場性抜群です。

肉質は緻密で、甘みがあり、生食、煮物、漬物に適しています。

夏播きでの赤芯症、秋播きでの空洞症も少なく、す入りも安定しており、栽培容易です。

秋系の中では晩抽性ですが、無理な早播きは避けます。7月播きでは軟腐病が発生しやすいので、粗植とし、窒素量も 4~5 kg とします。

### 3 適播種期と栽培のポイント

ダイコンは全道各地で栽培されていますが、気象条件が異なるため、適品種と播種期は気温に合わせて設定します。

以下に、北海道の代表的な作型と適播種期について紹介致します(表2参照)。

(●…播種期, — 生育期, ■ 収穫期)

#### 1) 道南地方

品種名	作型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
喜太一	トンネルマルチ	●	●	●	●	■		
	マルチ		●	●	●	●	■	
	露地			●	●	●	●	■
RA-127	マルチ			●	●	●	●	■
	露地				●	●	●	●
夏元太	マルチ			●	●	●	●	■
	露地				●	●	●	●
涼太	マルチ				●	●	●	■
	露地				●	●	●	●

#### 《栽培のポイント》

★トンネル栽培では、播種~間引き時までは十分保温し、生育中期には外気を入れ、播種後1か月ころにはビニールを除去し、外葉の伸び過ぎを防ぎます。雪解けの早い地域では3月下旬から播種できます。

★7月播きはアブラムシ予防を兼ねてシルバー

表2 播種期別施肥例

播種期	品種名	作型	栽植密度 (本/10a)	成分量 (N-P-K/10a)	備考
4月中旬	喜太一	トンネル	6,000	10-20-10	硝酸態窒素を50% 施用する。
5月中旬	喜太一	マルチ	6,700	8-18-6	
6月上旬	喜太一	マルチ	6,200	6-21-7	硝酸態窒素を30% 施用する。
6月中旬	RA-127	マルチ	6,200	4-15-5	
6月下旬	夏元太	マルチ	6,200	5-18-6	
7月上旬	RA-127	露地	5,600	4-15-5	
7月中旬	夏元太	露地	6,200	5-18-6	野菜後作では窒素 を減らす。
7月中旬	涼太	露地	5,600	5-18-6	
8月上旬	涼太	露地	6,200	6-21-7	
8月中旬	涼太	露地	6,900	10-15-10	

注) 高畦栽培は2割減肥、泥炭地は2～3割減肥。  
地力、栽植密度により増減する。  
6～7月播きにはFTE 4～6 kg/10aを施用する。

マルチ栽培とすると良品が生産できます。

★8～9月穫りでは生理障害対策としてFTEを4～6 kg/10a施用します。

## 2) 道央地方

品種名	作型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
喜太一	トンネルマルチ	●	●	●	●	●	■	
	マルチ		●	●	●	●	●	■
	露地		●	●	●	●	■	
RA-127	マルチ			●	●	●	●	■
	露地			●	●	●	●	■
夏元太	マルチ			●	●	●	●	■
	露地			●	●	●	●	■
涼太	マルチ				●	●	●	■
	露地				●	●	●	■



写真4 揃いが良く、耐暑・耐病性で、高温期の栽培に最適な「涼太」

## 《栽培のポイント》

★早播きは抽苔の危険があり、短根になりやすいので、べたがけの併用が有効です。

★喜太一、RA-127、夏元太は萎黄病に対しては強い方ですが、激発地での作付けは避けます。

★8～9月穫りは軟腐病、横縞症が発生しやすい作型なので防除を徹底します。

## 3) 道東地方

品種名	作型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
喜太一	マルチ			●	●	●	●	■
	露地			●	●	●	●	■
RA-127	マルチ				●	●	●	■
	露地				●	●	●	■
夏元太	マルチ				●	●	●	■
	露地				●	●	●	■
涼太	マルチ				●	●	●	■
	露地				●	●	●	■

## 《栽培のポイント》

★低温期間が長いので、マルチ栽培でもべたがけの併用が抽苔防止に有効です。

★根長の確保と湿害対策として高畦栽培を行います。

## 4 むすび

北海道では多くの品種が使われていますが、品種特性を良く理解し、なおかつ、栽培のポイントを知って、その品種特性を十分に発揮させることが大切です。

弊社では、今後も良質ダイコン生産のための品種育成、栽培試験を積極的に進めていきますのでご期待ください。